

基 本 調 査 票

本調査票は、貴事業所の基本的な概要について記載していただくものです。

本調査票の記入日 :	2025 年 9 月 30 日
------------	-----------------

設置・運営主体	社会福祉法人絆友会		
設置主体			
経営主体	社会福祉法人絆友会		
事業所名 (施設名)	たじま絆保育園	種別	保育所
所在地	〒 338-0837 埼玉県さいたま市桜区田島3-13-4		
電話	048-711-5697		
FAX	048-711-5698		
Email	yoshio_kawana@hanyuukai.biz		
URL	http://tajimakizuna.hanyuukai.biz/		
施設長氏名	川名美雄		
調査対応担当者	川名美雄 (所属、職名 : 施設長)		
利用定員	90 名	開設年	平成 29 年 4 月 1 日
理念・基本方針			
理念 ・子どもが生き生きと過ごし、無限に成長できる保育園 ・子どもたち一人ひとりの成長を理解し、共に育てる保育園 ・子どもを安心して託し、子育ての楽しさを十分に感じられる保育園			
保育の基本方針 1 生き生きと子どもに 情直、意育、食育、個別性 2 無限に成長できる子どもに 知育、体育、読育 3 子ども一人ひとりの成長を理解する 個別性 4 他人も自分も大切にし、命を尊ぶ子どもに育てます。 地域のお年寄りや、身近な人に感謝の気持ちを持たせます。 5自分の思いを表現できる子どもに育てます。 感じたことや想像したことを、音楽や造形で自由に表現できるようにします。			
開所時間 (通所施設のみ)	7:00~19:00		

【利用者の状況に関する事項】

○保育所の場合（通常保育）

	定 員	利用児童数	クラス数	1 クラスあたり 平均児童数	1 クラスあたり 平均保育士数
0歳児	6	6	1	6	2
1歳児	16	18	1	18	3
2歳児	17	16	1	16	3
3歳児	17	22	1	22	1
4歳児	17	21	1	21	1
5歳児	17	19	1	19	1
計	90	102	6	—	—

(注) 1 クラスあたり平均児童数は 2 クラス以上ある場合に記載。非常勤保育士等については常勤換算で計算。異年齢児クラスはその区分ごとに記載。

【職員の状況に関する事項】

○保育所の場合

常勤職員数	19 人		
うち	保育士	17 人	保健師・看護師 0 人
	栄養士・調理員	2 人	その他(0) 人
非常勤職員数	12 人	(常勤換算 5 人)	
うち	保育士	3 人 (常勤換算 1.4 人)	
	保健師・看護師	0 人 (常勤換算 人)	
	栄養士・調理員	1 人 (常勤換算 0.5 人)	
	その他(8) 人	(常勤換算 3.1 人)	
(注) 常勤換算計算式 非常勤職員：それぞれの週あたりの勤務延時間数の総数 ÷ 当該保育所の常勤職員が勤務すべき時間数。栄養士・調理員：調理業務を委託している場合には「委託」と記載。			
(2) 前年度採用・退職の状況	採用	常勤： 2 人	非常勤： 4 人
	退職	常勤： 1 人	非常勤： 0 人
(3) 常勤職員(うち保育士・保健師・看護師)の平均年齢	43 歳	(43.5 歳)	
(4) 常勤職員(うち保育士・保健師・看護師)の平均在職年数	11 年	(10.7 年)	
(注) 現在の保育所での在職年数。ただし、同一の運営主体(法人・自治体)内の児童福祉施設間の異動は通算可(公営の場合には保育主管課在職期間も通算可)。小数点以下第二位を四捨五入。			

【本来事業に併設して行っている事業】

(保育所の場合)

事業名	実施の有無	利用料
乳児保育	○	－
延長保育	○	30分250円 1時間400円 月4,000上限
休日保育		
障害児保育	○	－
一時保育		
地域子育て支援センター		
乳幼児健康支援一時預かり事業（病後児保育）		
アレルギー等対応給食	○	－
その他（事業名：）		

(注) 実施事業には有無欄に○を付し、利用料を記載する。自主事業も含む。

【ボランティア等の受け入れに関する事項】

・令和 7 年度におけるボランティアの受け入れ数（延べ人数）

40 人

・ボランティアの業務

保育補助

【実習生の受け入れ】

・令和 6 年度における実習生の受け入れ数（実数）

社会福祉士 人

介護福祉士 人

その他 3 人

【施設の状況に関する事項】

○保育所の場合

(1) 建物面積 (保育所分)	294.72 m ²		
	児童 1人あたり	32.7 m ² (計算式 : 建物延べ床面積合計 ÷ 定員)	
(2) 園庭面積	292.47 m ²		
	児童 1人あたり	3.2 m ² (計算式 : 園庭面積合計 ÷ 定員)	
(3) 耐火・耐震構造	耐火	<input checked="" type="checkbox"/> 1. はい	<input type="checkbox"/> 2. いいえ
	耐震	<input checked="" type="checkbox"/> 1. はい	<input type="checkbox"/> 2. いいえ
(4) 建築(含大改築)年	平成	29 年	

【サービス利用者からの意見等の聴取について】

保育園において、提供しているサービスに対する利用者からの意見を聞くためにどのような取り組みをされていますか。具体的にご記入ください。

ICT連絡帳アプリによる日々の双方向連絡

連絡帳アプリを活用し、写真・動画を交えた保育の見える化を進めるとともに、保護者からのコメント・要望を日々受け付けています。これにより日常的な気づきや意見をスピーディーに把握し、担任から園内で共有できる体制を整えています。

園見学・入園前面談での個別ヒアリング

入園検討段階から個別対応の見学・面談の機会を設け、保護者の不安やニーズ、サービスに対する期待・要望を直接伺っています。

Web問い合わせフォームによる随時受付

法人サイトの「お問い合わせ」フォームを通じ、時間や来園に制約のある保護者からもご意見・ご要望を随時受信できる窓口を設けています。

情報公開と書式の整備

園のしおり・重要事項説明書等の必要書式をWeb上で公開し、ルールや手続きの透明性を高めることで、意見表明がしやすい環境整備に努めています。

【その他特記事項】

保育園の特徴的な取り組み等について具体的にご記入ください。

三本の柱を据えた保育方針

「遊びが学び」「絆を大切にする思いやり」「生き抜く力を育む保育」を、保育の軸として掲げています。

ICT化の推進・アプリ活用による保護者連携強化

紙の連絡帳を廃し、連絡帳アプリ（Kidslyなど）を導入。園児の活動写真・動画、お知らせ、欠席連絡などを一元化して配信・共有できるようにしています。

こだわりの保育環境・DIYを活かした物的環境整備

園庭：第一園庭は「色鉛筆モチーフ」の造形遊具、築山、吊り橋、トンネルなどを設けた遊具空間。メディアにも取り上げられた設計。

第二園庭はウッドチップ敷設など、遊び心をくすぐる設計。

園内にも木馬、クライミング、アスレチック要素、知育遊具を配置。室内外を通じて動き・探究・表現を誘う空間設計を意識。

DIY工作：園用家具（テーブル、ベンチ、キッチンセットなど）を職員が制作。こどもが使いやすいよう面取りや安全処理を施し、環境を段階的に変えていく工夫を継続。

少人数担当制・異年齢保育・コーナー保育

年齢差や成長差を意識しながら、少人数担当制を採り、個別性に配慮したかかわりを重視。

異年齢保育によって年上・年下のこども同士の関わりを促し、「絆」「思いやり」の学びを育てる。

コーナー保育（遊び場を複数設け、こども自身が選択して遊ぶ構成）を日常保育に取り入れ、主体的な遊びを尊重。

食育・選択型バイキング給食 栄養バランスを考えながら、こどもが自分で選んで食べる楽しさ・学びを得られるよう、バイキング形式の給食を導入。トウモロコシの皮むき、カレー作りなど調理体験の機会を設け、食への関心・理解を育てる。

体育・表現・知育との統合プログラム

幼児クラスで週1回の体育あそび（跳び箱・鉄棒・マット運動など）を実施。運動機能、集中力、表現力を育成。

文字あそび（遊びのなかで文字・語彙・思考力を育む）を日常保育に取り入れる。

知育あそびとして、事象あそび・iPad利用等を用い、こどもの思考力や探究性を育む。

専門講師による音楽教室（リズム体操・打楽器活動（カホンなど））を導入。音楽活動を通じて表現力・感性を刺激。

働き方改革・職員支援と多様性尊重

連絡帳アプリ導入、引き継ぎノートに代わるチャットワークの活用、清掃にはロボット掃除機を導入するなど、効率化・省力化を取り入れています。

職員の残業を抑える「毎日 NO 残業」方針を掲げ、有給休暇取得促進。育児休業制度、育児短時間勤務制度などを制度的に整備。

多様性を尊重する職場づくり：見た目（髪型・髪色・ネイルなど）に関する制約を緩め、内面重視の評価をおこなう職場文化を目指す。

【第三者評価の受審状況】

- ・受審回数（前回の受審時期）

1 回 (令和 2 年度)